

平成28年度 『学校外部 第三者評価』

平成29年3月23日（金） 17：00～

外部評価委員 出席者

A 様：鉄工会社社長、B 様：金融機関支店長、C 様：主婦

文書により意見回答

D 様：介護施設事務長、E 様：公認会計士

校長 相馬 真吾、教頭 宮下 靖広、教頭（書記）真鍋 郁郎

《学校運営》

- ・文武両道の学校経営がされていることが理解できる。
- ・挨拶が身につけており、教育活動の基本が確立されていると感じる。
- ・アンケート結果からは全体的に良い評価の項目が多いと感じた。
- ・先生方の中で共通理解や連携が不十分だと感じる方が多い点が気になります。
- ・保護者の方々からは高評価が多く素晴らしいと思います。

《教育活動》

- ・生徒からの結果の中で、授業中の姿勢を先生方がもっと指導すべきだという意見が多めである点を受け止め次年度から改善されるよう願います。
- ・選挙権年齢が18歳以上となったことから、この権利を人権と捉え、生徒に指導することが大切だと思います。
- ・学年が進行するにつれB、Aの評価が多くなる点が良いと思います。
- ・放課後の講習や土曜日の講習、部活動にと先生方の健康面が心配です。
- ・企業が求める人材を育成することは、就職を希望する生徒の育成の基本だと考えることから、企業にリサーチを行ったり、現職の方々に講義や実習を行ってもらおう計画をしたらどうか。同窓生を利用すること可能。

《その他》（アンケート結果以外を含む）

- ・ホームカミングデー的なものがないか？定年された同窓生が授業を在校生と一緒に受けるなどの企画ができないだろうか。
- ・保護者の送迎ルールさらなる徹底と工夫をお願いしたい（特にスクールバス運行期間）。
- ・生徒は先生方の鏡。先生の姿勢が生徒の姿勢をつくる。常に自己の姿勢を顧みて生徒を指導してほしい。

※ 以上、第三者評価でいただいた意見をまとめました。今後の学校教育に生かしていきたいと考えます。